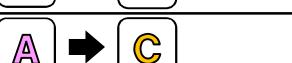


令和2年度全国学力・学習状況調査の問題冊子等の活用(例)

	A 校内研修で活用	B 調査の実施	C 授業で調査問題を活用
メリット	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 求められている学力を教員が理解し、授業改善につなげることができる。 ➤ 調査問題を踏まえた授業改善を学校全体で行うことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 児童生徒の学習状況を客観的に把握し、課題を明確にすることができます。 ➤ 児童生徒の課題に即した個別の支援や授業改善ができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 全国調査の問題を実際の授業展開に生かすことができる。 ➤ 学習進度を遅らせず、調査問題を取り扱うことができる。
手順	<ol style="list-style-type: none"> ① 教員が問題を解く。 ② ①を踏まえ、授業改善の方向性について話し合い、具体的な取組事項を決める。 ③ 取組事項を、学力向上プランに反映させる。 ④ 学力向上プランに則り、定期的に検証改善を行う。 	<ol style="list-style-type: none"> ① 実施期間を決め、調査を実施する。 ② 校内で採点し、集計支援ツールを活用する。 ③ 正答率の低い問題について分析し、課題を洗い出す。 ④ 調査対象学年の課題を学校全体で共有し、学年・学級の授業改善に取り組む。 ⑤ 調査結果を生かし、個に応じたきめ細かい指導を行う。 	<ol style="list-style-type: none"> ① 別紙「調査問題と学習内容の関連表」で授業を扱う学年や学習内容を確認する。 ② 調査問題を学習課題にしたり、単元のまとめで解いたりして活用する。 ③ 授業をする際には、各教科の「解説資料」を参考にする。 

	A, B, Cの方法を組み合わせた活用(例)	参考となるツールや資料
I型		・問題冊子 ・調査問題と学習内容の関連表 ・集計支援ツール ・解説資料
II型		・問題冊子 ・調査問題と学習内容の関連表 ・集計支援ツール ・解説資料
III型		・問題冊子 ・調査問題と学習内容の関連表 ・解説資料
IV型		・問題冊子 ・調査問題と学習内容の関連表 ・解説資料